

# 桑名市総合計画における行政改革大綱の見直しに向けて

「桑名市総合計画 - 後期計画 - 」の策定にあわせて、行政改革大綱（納税者の視点で次の世代に責任ある財政に）の見直しを行います。

## 前期基本計画の検証方法 【資料③：行政改革大綱 検証シート】

総合計画（前期計画）をベースにして検証を行い、その課題整理と時代の変化を捉えた新たな課題を踏まえ、ピンポイント戦略にて見直しを図っていきます。

### 総合計画（前期）進捗状況の課題整理

⇒総合計画（行政改革）の進捗管理のなかで課題整理を行い、次の時代に対応した取り組みへと見直します。

### 桑名市での実現可能性の検討

⇒「AI」や「RPA」等の活用や、公共施設マネジメントの推進など、新たな改革を推進するための必要性を検討します。

### 市民満足度調査結果の反映

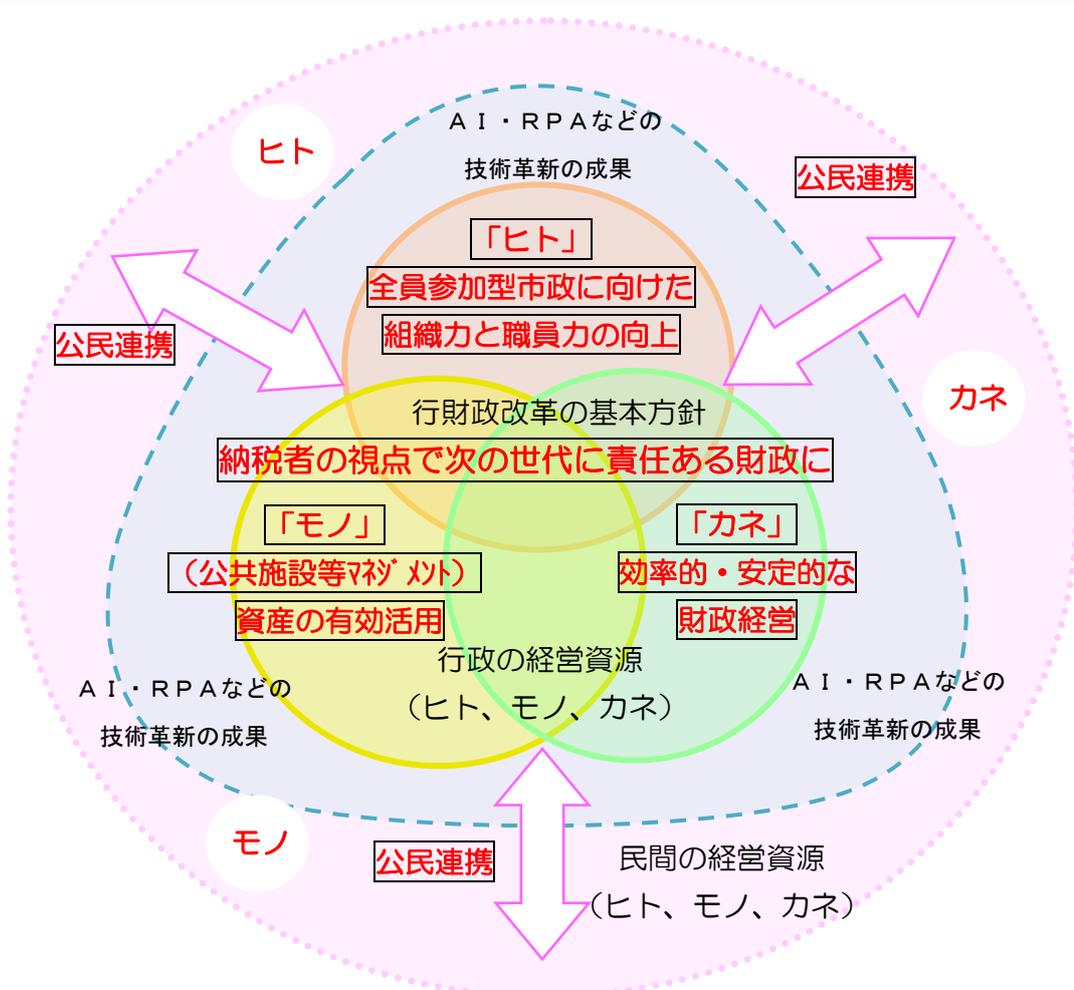
⇒今回の調査結果では、前回調査と比較して「行財政改革」の重要度は若干下がっていますが、「財政健全化」の重要度は高くなっています。そこで、調査結果から市民ニーズを経年比較・分析し、計画に反映します。

## 見直しの視点 【資料④：行政改革大綱 見直しの必要性について】

総合計画（後期計画）の検証を行うとともに、「2040年問題」をはじめ、市民ニーズの多様化や社会情勢の変化等を踏まえ、人口減少時代の「パラダイムの転換」に注力し、変化に耐えうる実効性のある取り組みとします。

- ※2040年問題とは
  - ⇒高齢者人口がピークを迎え、労働力不足も深刻化する危機。現在、国では社会保障、社会資本整備、子育て・教育、地方行財政の各分野について2040年を見据えた抜本的な改革を検討中
- ※パラダイムの転換とは
  - ⇒既存概念にとらわれず、発想の転換や斬新なアイデアにより劇的に変化させること

- ・サービスを納税者の視点で考え、税金の使い方を見直し、財政負担を減らしながら、市民へのサービスを維持していくため、「納税者の視点で次の世代に責任ある財政に」を基本方針として掲げます。
  - ・市民ニーズの多様化や社会情勢に変化等を踏まえ、人口減少時代のパラダイムの転換に注力し、変化に耐えうる持続可能なスマート自治体へ転換します。
  - ・単独でサービスを提供してきた、これまでの手法から発想転換し、広域で「ヒト」や「モノ」をシェアするなどの新たな手法を取り入れていきます。
  - ・行政の主要な経営資源（ヒト、モノ、カネ）を効率的・効果的に活用し、持続可能な行財政運営を進めます。
  - ・行政の経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」を基本に、これら経営資源を民間の視点から見直し、民間の経営資源を積極的に活用した市民サービスの実現を目指す「公民連携」の考え方を取り入れ、取り組んでいきます。
  - ・行政の経営資源が制約される中、AI・RPAなどの技術革新の成果を積極的に活用し、効率的に業務の改善を図っていきます。
- 【※波線部分が、加筆・訂正（案）です】



⇒スマート自治体として「ヒト」「モノ」「カネ」は内容を充実させ、よりスマートに、かつ結びつきを強めていきます

⇒市民サービスを維持していくため、AI・RPAなどの技術革新の成果を積極的に活用していきます

【 議 題 】

適正な見直しを実施するため、「基本方針（素案）の見直しの方向性は正しいか」、「課題は抽出できているか」等について、次期計画策定に向けて、前向きなご意見をいただきたい。